

# 行政視察等報告書

令和5年6月16日

長野市議会議員 寺 沢 さゆり 様

報告者氏名（代表）  
観光戦略調査研究特別委員会  
委員長 宮 崎 治 夫

この度、行政視察をいたしましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

## 記

- 1 視 察 区 分 観光戦略調査研究特別委員会行政視察
- 2 視察者氏名 宮崎 治夫 加藤 英夫 松井 英雄 小林 史子  
黒沢 清一 東方 みゆき 近藤 満里 三井 経光
- 3 随 行 者 書記 吉澤 耕介
- 4 視 察 期 間 令和5年4月21日（金）
- 5 視察先及び視察事項

視 察 先	視 察 日 時	視 察 事 項
野 沢 温 泉 ス キ ー 場	4月21日（金） 午前11時30分～ 午後1時	インバウンド誘客の取組について
野 沢 温 泉 蒸 留 所	午後1時10分～ 午後1時30分	
野 沢 温 泉 村	午後2時～ 午後3時30分	

6 調査概要

月 日	視 察 先	考 察 (所感、課題、提言等)
4 / 21	野 沢 温 泉 村	<p><b>[概要]</b></p> <p><b>○野沢温泉スキー場、野沢温泉蒸留所、村内散策、野沢温泉村役場</b></p> <p>野沢温泉村は県北東部に位置し、人口3200人で知名度の高い温泉街とスキー場を有する観光産業が盛んな村。冬季は特別豪雪地帯に指定され、県内屈指の豪雪地帯である。</p> <p>行政組織のほかに、江戸時代から続く「野沢組」があり、温泉の管理・除雪・水路の修繕・祭りの運営等を行っている。</p> <p>一時はスキーブームの衰退から、観光客数が減少し旅館や商店の廃業が相次いだ。2010年代から外国人観光客が増加し、その後廃業した旅館や商店を引き継ぎ、多くの飲食店を再開させ、賑わいを取り戻している。</p> <p>村の仲介で、外国人の観光事業者と既存村民が懇談・協力するようになり、野沢組に組合費を納め、加入する外国人もいる。</p> <p>野沢温泉蒸留所は、移住したオーストラリア人が開業し、村内の天然水を使用し蒸留酒を製造している。「野沢温泉ウイスキー」と「野沢温泉ジン」を蒸留し、国産蒸留酒として高い評価を得ている。</p> <p>蒸留所内では、製造に加えて試飲や販売、工場見学も行い観光客に人気がある。</p> <p>野沢温泉スキー場は、ゴンドラ2基リフト16基を有し、最長滑走距離が10kmと国内屈指のスキー場だが、スキー人口減少に伴い経営難に陥り、2005年から野沢組をはじめとする村民が出資した「株式会社野沢温泉」を設立、経営を民間に移管した。</p> <p><b>[考察]</b></p> <p><b>○野沢温泉スキー場について</b></p> <p>2020年に約30億円かけて導入した長坂ゴンドラリフトは、最新モデルでありコロナ禍での整備と経営では多くの苦労はあったと思うが、将来を見越しての英断にインバウンド需要の戻りなど効果が現れていると思う。</p> <p>そのゴンドラで、ご案内をいただきながら静かな乗り心地で、あっという間に上の平山頂駅に到着。この時期でもGWに向けて降雪機でスノーメイクを行うとのことである。</p> <p>視察の日は平日であったが、外国人の姿が見受けられた。施設のサイン類はわざとらしさがない程度に日本語と英語の併記が多かった。食堂のメニューなどには写真も必須と感じた。ピクトグラム、写真やイラストでシンプルに通じる工夫も参考にできそうだった。</p> <p>昼食時にスキー場の営業戦略についてお話をお聞きした。パウダースノーを求めてやって来る海外スキー客はシーズン13万人。そのうちの約6割はオーストラリア人で、長期滞在をしている。</p> <p>外国人客は、全体の利用者約42万人の35%にあたるが、50万人以内でないと、サービスが疎かになり飽きられてしまうとの懸念があるとのことである。</p> <p>また、施設のバリアフリー化に関しては、障害者が参加するスキー大会の開催経験から重要性を認識していたという。長坂ゴンドラリフトのリニューアルにあたり、センターハウス等はバリアフリーを重視して建て替えた。エレベーターの設置、段差にはスロープ、チケットカウンターも車いすを想定した低めのブースも設けている。ゴンドラの乗降場への動線、ゴンドラへの乗り降りも段差なく行えるようになっている。今後を考えると、長野市の観光施設もバリアフリー化を積極的に進め、多様な観光客を受け入れられるようにしていきたい。</p>

グリーンシーズンの来場者増加は、長野市とも共通する課題であるが、野沢温泉スキー場では、屋内外の子ども向け遊び場、ゴンドラ山頂駅周辺のお花畑や食堂など、グリーンシーズンを想定してスキー場周辺にコンパクトに整備されている。本市では、戸隠スキー場の周辺一帯に観光資源が点在するので、その差異も踏まえながらグリーンシーズンの活用方策を考える必要があると感じた。

#### ○野沢温泉蒸留所について

村のまちなみの中に、おしゃれだけれど違和感がなく存在している。新しい文化と歴史のある古い街中の融合が素晴らしい。

野沢温泉にスキーで訪れた現社長が、野沢の水にほれ込んで移住をして、2022年12月に缶詰工場跡地に「野沢温泉蒸留所」をオープンさせた。クラフトジンとウイスキーの製造販売を行い、今秋にはカフェが併設され、新たな産業を生み出している。

同じく、イギリス人が野沢温泉の水に惚れこみ起業、廃園となった保育園の建屋を利活用してクラフトビールの製造・販売を始めた。古い文化を守りながら店舗をリノベーションし、外国人の店員が野沢温泉村の住人になるなど、新たな野沢温泉の魅力が見えた。店舗施設での雇用も生まれ、マスコミにも取り上げられるなど注目も浴びており、村の活性化に期待感をもたらせている。

#### ○野沢温泉村について

地域コミュニティーには、難しいこと、大変なこともあると思うが、今回の視察では、村の職員の方をはじめ案内して下さった方たちの楽しそうな前向きな雰囲気印象的だった。地域に生まれ育った住民の知恵と、外から入ってきた住民の新しい視点がうまく合わさって、地域が活性化しているように感じた。

観光地としての温泉街に注目すると、他地域でもそぞろ歩きできる様に集中的に店舗の充実を図っている場所もあるが、野沢温泉村には、外湯巡りが伝統的な文化として存在しているので、まち歩きとそれに伴う飲食が必然的にできる事は、大きなメリットである。

近年は外国人観光客が増加している。村内を徒歩で移動でき、お寺、神社、肉屋魚屋などの生活、文化を一通り体験でき、日本の文化に興味・関心を示す外国人にとって、楽しめる環境になっている。これは行政と観光協会と村民の連携がインバウンドの誘客に大きく貢献している。

外国人観光客の増加に伴い、泊食分離が一般的になり様々な飲食店が並んでいた。そのために温泉街では空き家はなく古い空き店舗も賃貸や売却などすぐに手が付けられるとのことである。村内での飲食は若干高めの価格設定だったが、インバウンドを意識した地域ぐるみでの価格設定と思われる。また泊食分離の文化から飲食店の経営も好調なのだろうと推測できる。

しかし、泊食分離をスタートさせた当初は、需給バランスが取れずに夕食難民が出ていた。対策として、宿同士、また飲食店と宿が連絡を取り合うなど、地域の事業者が連携して課題解決にあたり、大きなトラブルがなかったという。このような望ましい取り組みも、普段から村内の関係性が強いからできるものと考えられる。システムやアプリがなくても、関連事業者や地域の人々のこうした動き方が、長野市の観光地でもできるとよいのではと思う。

インバウンド誘致の考え方として、土地の伝統や文化を大切に、ありのままを売ること。この点をご説明で強調されていたが、村内の散策や役場でのご説明を通して、まさにそのことが重要だと改めて認識した。

		<p>野沢温泉のインバウンド客は、2007年民間主体の野沢温泉インバウンド協議会から本格的に始まっており、その後も協議会の皆様がイギリス、オーストラリア、東南アジアなど現地に赴きプロモーション活動を展開している成果だと思う。</p> <p>外国人に人気があるスキー場エリアは日本各地にあるが、それぞれが棲み分けされている。外国人向けに開発が進んだニセコや白馬、地域の伝統や文化を大切にしている野沢温泉。野沢温泉はこじんまりした村の雰囲気や伝統を残しつつ、空き店舗のリノベーション等により、外国人や若い人が好みそうな宿泊施設や飲食店が次々と生まれている。そのごちゃまぜ感もまた外国人にとって魅力的である。</p> <p>外国人との接し方も、丁度良い距離感が保たれているようである。地域には同世代の集まりがあり、外国人も広く受け入れ、親しい付き合いをしているようだ。自然環境や文化に止まらず、こうした人間関係、地域社会のありよう、そんな姿勢がお互いにとって居心地の良さも担っているのではないか。</p> <p>長野市においても観光都市でありインバウンド客を取り込んでいるが、長野市のブランドを発見、磨き、発信することが重要である一方、邦人の旅行者も多いことから両方の観光客のことを考えての価格設定や周遊プランなど開発が必要である。</p> <p>村の持ち味を大切にしながら観光施策を進める事によって、その魅力が保たれている事は注目すべき点であると思う。背伸びをしすぎず、出来る事を進めていく野沢スタイルは、観光地において、どこに目標を定めるのか考えさせられる。</p> <p>長野市においても、長野のあるべき姿を常に意識しながら観光施策を進めていく事が必要だと感じた。</p> <p>「ありのまま」を売る。海外でのプロモーションでインバウンド誘致に掛けてきた野沢温泉の観光戦略が大いに勉強になった。今後の長野市の魅力発見・新たな人材育成に期待をしていきたい。</p>
--	--	---